



国語問題

はじめに、これを読むこと。

(注意事項)

1. この問題用紙は十六ページまでである。ただし、ページ番号のない白紙はページ数に含まない。
2. 解答用紙の所定の欄に、必ず氏名を記入すること。
3. 解答用紙には受験番号が印刷されているので、受験番号が正しいかどうか受験票と照合して確認すること。
4. 解答はすべて「解答用紙」の解答欄に記入またはマークすること。解答欄以外のところには何も記入しないこと。
5. 解答は、必ず鉛筆またはシャープペンシル(いずれもHB・黒)で記入すること。
6. 訂正は消しゴムできれいに消し、消しくずを残さないこと。
7. 解答用紙は、絶対に汚したり折り曲げたりしないこと。
8. 文字は楷書で正確に書くこと。
9. 解答用紙は持ちかえらないこと。
10. この問題用紙は必ず持ちかえること。
11. 試験時間は六十分である。

(マークの記入例)

良い例	悪い例
	

(一) 次の文章を読み、後の問に答えよ。

日本が地震大国であることは誰もが肝に銘じていたはずなのだが、ここへきて、改めてそのことを知らされた。阪神・淡路大地震から20年、東日本大地震からわずか5年。今度は、熊本・大分を中心とする九州中部の大地震である。その間にもいくつかの地震がこの列島を襲い、そして遠くない未来には、東南海や首都圏を襲うであろう地震による途方もない被害が想定されている。

この列島中を活断層が走っている。いずれ大地が鳴動することは間違いないものの、いつどこで生じるかわからない。たたびとたび生じれば、一瞬にして生命を奪われ、その生は断ち切られる。この瞬間を境目にして生の様相は一変し、生者と死者は不可避的に引き裂かれる。こういう不条理な不確定性のもとに誰もが置かれ、その不安や不気味さから逃れることができない。しかも、この「生へのキョウイ」^①は、富裕層であるとか貧困層であるとか、老人であるとか若者であるとか、都会人であるとか田舎人であるとかとは関係なく、誰に対しても平等に襲いかかる。いかに近代社会が、等しく人々の生命財産を保障するという原理を打ち立てても、この不条理は、近代社会の根幹を一気に破壊してしまう。それがいまわれわれが置かれた状況である。

じっさい、活断層地図などというものを見せられると、生命尊重こそを繰り返してトナ^②えてきた戦後日本が、実は何ともいえないような生命の危機を内包していることがよくわかる。そしてこの事態を前にしてわれわれは立ちすくむほかない。もちろん、防災対策も被害の最小化への努力も早急になさねばならないし、地震予測の精度向上も期待される。緊急時の危機管理も整備されねばならない。

ア どれだけ防災対策や危機管理を行おうと、この巨大な自然の鳴動を抑えることはできない。つまり、われわれはどこかで「あきらめる」ほかない。

このような言い方は読者にいくぶん不快感を与えるだろうし、被災者の苦しみは何と心得ているのか、というお叱りを受けるかもしれない。

a と揶揄^{ヤウ}されるかもしれない。しかし何とおおうとそれは現実である。そして実は、われわれは現に「あきらめて」いるのである。誰もが、防災を口にし、可能な政策的対応の必要を訴える。しかし、われわれは本気でそう思っ

いるのだろうか。

東日本大震災は、われわれにいわば価値観の転換をせまったはずだった。そもそも近代社会とは、自然のうちに潜むエネルギーを引き出し、それを人為的に操作し、変換されたエネルギーによって荒れ地を都会に作り変え、山を掘りくずして道路網を作り、農業を破壊して巨大工場や高層ビルを建て、自然とともにあった神々を追放していった。金銭的利益を生み出す競争と物的な富の蓄積、つまり **b** こそがすべての問題を解決すると見なした。いつどこで一瞬のうちに生が遮断されるかもしれないという不安には蓋をしたのである。つまり、事実上「あきらめた」のだ。

きわめて不安定な岩板(プレート)の上に日本列島があぶなっかしく乗っかっていることを知りつつも、ただただこの岩板の変動が最小限にとどまることを祈るだけ、ということにしたのである。 **イ**、東日本大震災から1、2年もたてば当事者を

除いて震災の記憶は薄れ、3年もたてばまたもや、あの手この手を尽くした成長戦略を打ち上げ、株価の動向に一喜一憂するという、われわれの不細工な自画像を描く必要はなかったであろう。そして5年もたてば、また、東京オリンピックで建設ラッシュになり、インバウンド観光客の急増で大都市はたいへんな賑わいになったとはしゃいでいる。あの巨大地震の恐怖は、あつというまに、経済成長への期待と不安にとつてかわられたのであった。つまり巨大地震については「あきらめた」ことになる。

しかし、この「あきらめ」は、真のあきらめではない。ただの思考停止であり、不都合なものは存在しないことにした、という消極的なものである。確かに、ここまで私的な所有権がはりめぐらされ、産業構造ができあがってしまった国で、根本的な防災対策はきわめて難しい。現状を動かしようがないのである。とすれば、「きたらきたで仕方なからう」というのもわからないではない。

だが、本当の「あきらめ」は思考停止でもなければ **a** でもない。本当に「あきらめる」には覚悟が必要であり、それは容易なことではない。その覚悟とは、人智を超えた巨大な自然の前にあつては、人間の生命など実にもろくもはかない、という自覚を持つことである。それは、生への過度な執着を断ち切り、幸福を物的な富の増大に委ねることの虚しさを知り、 **ウ** 人の生も自然の手に委ねられた偶然の賜物であり、われわれの生命はたえず危機にさらされると知ることでもある。

かつて哲学者の和辻哲郎は、日本人の精神的傾向として「戦闘的な恬淡^{てんたん}」といい、また「きれいなあきらめ」ともいい、それをきわめて荒々しい日本の自然風土と結びつけた。確かに日本人の「あきらめ」は、こうした人智を超えた「自然」への畏怖^{いふ}と不可分であった。それはまた、今日のわれわれを支配する「近代的」生活や価値観を見直すことでもある。これは相当に「覚悟^B」のいる「あきらめ」なのである。

(佐伯啓思の文章による／人名表記は原文通り)

問一 傍線部①②のカタカナの部分に漢字に改めよ。

問二 空欄

ア

イ

ウ

マークせよ。

に入る語の組み合わせとして最も適切なものを次の1～5の中から一つ選び、その符号をマ

- | | | | | | | |
|---|---|--------|---|--------|---|--------|
| 1 | ア | さもなければ | イ | しかし | ウ | そして |
| 2 | ア | そして | イ | さもなければ | ウ | しかし |
| 3 | ア | そして | イ | しかし | ウ | さもなければ |
| 4 | ア | しかし | イ | そして | ウ | さもなければ |
| 5 | ア | しかし | イ | さもなければ | ウ | そして |

問三 二箇所の空欄

a

に入る語として最も適切なものを次の1～5の中から一つ選び、その符号をマークせよ。

1 合理主義

2 敗北主義

3 迎合主義

4 自然主義

5 現実主義

問四 空欄

b

に入る語として最も適切なものを次の1～5の中から一つ選び、その符号をマークせよ。

- 1 デモクラシーと市場原理
- 2 ポピュリズムと金融緩和
- 3 イノベーションと経済成長
- 4 キャピタリズムと格差解消
- 5 モータリゼーションと公共工事

問五

傍線部A「生への過度な執着を断ち切り、幸福を物的な富の増大に委ねることの虚しさを知り」とあるが、次のうち内容的に最も近いものはどれか。最も適切なものを次の1～5の中から一つ選び、その符号をマークせよ。

- 1 そもそも人間の生命には限りがあるのだから、必要以上に金銭を使い、自然に逆らってまで長命を保とうとすると、真の幸福はない。
- 2 人々の生命財産が保障されているとは言えないのだから、私財を増やすことを断念し、自然の神々を信仰しつつ、原初的生活をしていくべきである。
- 3 人類はかつて神々によって創造されたと考えることもできるのだから、その神々に背いて自然を破壊することは自らの首を絞めることになる。
- 4 人間はたまたま生かされているはかない存在なのだから、自然を破壊してまで欲望を満たすことの愚かさ気づかなければならない。
- 5 どんなに防災対策を施していても自然の力がそれを超えることがあるのだから、生命を存続させるべく自然体で過ごすことが大切である。

問六 傍線部B『覚悟』のいる『あきらめ』とあるが、その生き方の例としてふさわしいものはどれか。最も適切なものを次の1

〜5の中から一つ選び、その符号をマークせよ。

- 1 近代社会は日本の風土に相容れないため、古来の伝統と風習に基づいた生活をする。
- 2 いくら財産を築いても天災によって全てを失うこともあるので、労働を拒否して旅に生きる。
- 3 東京五輪に代表される社会成長へは期待をせず、個人の価値観を確立する努力を続ける。
- 4 金銭や物品に対する欲望を捨て、自らの生死を自然の力に預けた潔い生き方をしていく。
- 5 我々に未来はないことを自覚し、清貧思想に基づいた、あえて前近代的な暮らしをする。

(二) 次の文章を読み、後の問に答えよ。

子どもは叱るよりも、ほめることが大事だ。これは多くの人が知っていることだが、ほめれば何でもよいというわけではない。何に対してほめるのが大事なのだ。

どのようなほめ方をしたら子どもの算数への取り組み方が向上するかを調べた研究がある。子どもはコンピュータゲーム形式で算数の問題に取り組んだ。子どもを二つのグループに分け、一方のグループの子どもは正解をするとほめられ、別のグループでは学ぶ態度をほめられた。

a をほめられたグループの子どもは、b をほめられた子どもよりも、算数の理解の向上が著しかった。しかし、もつと重要なことに、算数に対する態度が変わり、c に対してほめられた子どもたちよりも、難しい問題に取り組む時間が長くなったのである。

d に対してお金やモノで報酬を与えつづけると、効果がないばかりか逆効果である、というシヨッキングな結果を報告した研究もある。ある研究では算数と関連した「ゲーム」を小学四年生と五年生にさせた。このとき、ゲームをした半数の子どもには報酬を与え、もう半数の子どもには報酬を与えなかった。さて、どちらの子どもの方がゲームを楽しんだのだろうか。

報酬を与えられた子どもは当初は嬉々としてゲームに勤しんだ。しかし、報酬がなくなるとゲームに対する興味は急激に落ち、もともとまったく報酬が与えられなかった子どもたちよりもそのゲームをしなくなったのである。

結果に対する物質的な報酬は創造的な思考にも悪影響を及ぼすことが別の研究で示されている。この研究では小学四年生、五年生に仮説を生成して問題解決をするような課題をさせた。「よくできた人にはおもちやをあげる」と報酬を約束された子どもは、約束をされなかった子どもに比べ、系統だった仮説をつくることができなかった。さらに、一週間後にこれに関連した別の問題をさせると、報酬を約束された子どもは約束されない子どもに比べ成績が悪かったのである。

報酬のために何かをさせると、子どもは自発的な興味を失い、報酬を得るためにその課題をするようになる。すると自分なりの工夫をしなくなり、報酬がもらえるように、手っ取り早い方法でいい加減に結果を出そうとしてしまうのだ。

昨今、「批判的思考」と並んで「アクティヴ・ラーニング」(主体的な学び)ということばが教育界のキーワードになっている。先生の言うことをおとなしく座って受動的に覚える学びではなく、子どもが主体的に学ぶことが大事だということだ。これは探究(註1)エビステモロジーと完全に軌を ア にする概念である。ただし、それをどのように実現するかという点では必ずしも一致しないようだ。遊びや学校の学びの中で、子どもが自分で発見することが大事というところ、すべてを子どもに任せて放っておくのがいちばんよい、という誤解をされやすい。しかし、それは違う。例えば、幼児にブロックや粘土など特定の機能や目的をもたない玩具をそのまま渡すだけでは、子どもは何をしてよいのかわからず、興味をもつことができずに放り投げてしまうだろう。遊びを通じて子どもはじつに様々なことを学ぶことができる。象徴能力を育むことはもとより、他者との関わりかた、つまりコミュニケーションの取り方を学ぶこともできる。しかし、子どもは最初から他の子どもと仲良くいっしょに遊べるわけではない。子どもが最初に他者との関わりかたを学べるのは、親子の遊びからである。

D 子どもが遊びから何を学べるかどうかは親の技量にかかっている。親が主導権を握ってしまい、「教える」つもりになってしまうと、それは子どもにとって遊びではなくなってしまう。他方、すべてを子どもに任せてしまうと子どもは新しいモノ、目先の目を引くモノに次々と引きつけられて、じつくりと遊びに取り組むことをしないことが多い。親はおもちゃや絵本などの遊びの道具の選択、遊びの環境づくり、そして何よりも、子どもとの関わりかたを考える必要がある。

例えば、絵本を読んだ後で、出てきた単語の意味やストーリーをテストのように問いただしたりすれば、子どもは絵本を楽しめず、本を読んでもらいたくなくなってしまう。E うまく質問に答えるために、本に書いてあるキーワードやストーリーを味わうよりも覚えようとする態度を身につけてしまう。

どのような遊び、どのような絵本を選ぶのかは、子どもの発達のレベルによって変わっていく。子どもの発達に合わせ、子どもが最も楽しみ、想像をはたらかせ、探究できる遊びや絵本を選べるかは、親のセンスが最も問われるところだ。細部は決めすぎず、子どもに任せながらも大事な枠組みは親が決めることが大事なのだ。そのために、親は子どもの理解のしかたや楽しみ方を考え、子どもの個性と発達の段階に適した、いっしょにできる遊びを考える探究人でありたい。

学校での学びも同じだ。幼児期の学びと児童期以降の学びで大きく違うところは、日常生活場面ではなく、学校という文脈で習得しなければならぬ知識が格段に増えることだろう。国語、算数、理科、社会、英語などの教科ごとに分かれた膨大な量の「知識」を学ぶことになる。

「できるだけ大量の知識を『教えよう』『教わろう』というエピステモロジーを教える側、教わる側の双方が持っている、知識の断片（「事実」と考えられていること）をとにかく「覚える」というドネルケバブ・エピステモロジーに必然的に行き着いてしまう。そうならないようにするためには、狭い範囲の分野だけを深掘りすればそれでよいというわけではない。知識に幅がなければ、様々な状況で使える知識がない（足りない）ことになってしまう。知識のシステムを構築するためには広がり、深さのどちらも必要なのだ。

そこで、^F児童期以降の学びでは時間の使い方がカギになる。いったいどうすれば、好きな学校外の活動の時間も運動する時間も十分な睡眠をとる時間も確保しつつ、知識の広がり、深さを得ることが可能になるのだろうか。それには、子どもが自分自身で学ぶ力をつけるしかない。そもそも、学校でどれほど幅広くいろいろな分野をカバーしても、技術や求められる知識が短期間にどんどん進化していく現代社会では、必要な知識は自分で身につけ、自分で自分を進化させていくしかない。ドネルケバブ・エピステモロジーでこれからの世界を生きていけないことは明らかだ。

探究エピステモロジーをもち、ずっと学びつづける探究人を育てるために何をすべきか。まず第一に、学校は「知識を覚える場」ではなく、知識を使う練習をし、探究をする場となるべきだ。知識を使う練習とは、持っている知識を様々な分野でどんな使い、それによって、新しい知識を自分で発見し、得ていくことである。それこそがアクティヴ・ラーニングの本質である。

（今井むつみ『学びとは何か——探究人になるために』による）

〔注1〕 探究エピステモロジー——知識は自分で発見し使ってこそ自分の一部になるという認識。

〔注2〕 ドネルケバブ・エピステモロジー——知識は事実の断片を集成してできるものだという認識。なお、ドネルケバブとは肉をスライスして積み重ねたトルコ料理のこと。

問一 空欄

a

く

d

 に入る語の組み合わせとして最も適切なものを次の1～5の中から一つ選び、その符号をマ

ークせよ。

- | | | | | | | | | |
|---|---|----|---|----|---|----|---|----|
| 1 | a | 正解 | b | 態度 | c | 態度 | d | 態度 |
| 2 | a | 正解 | b | 態度 | c | 態度 | d | 正解 |
| 3 | a | 正解 | b | 態度 | c | 正解 | d | 態度 |
| 4 | a | 態度 | b | 正解 | c | 正解 | d | 態度 |
| 5 | a | 態度 | b | 正解 | c | 正解 | d | 正解 |

問一 傍線部A「報酬がなくなるとゲームに対する興味は急激に落ち」とあるが、その理由として最も適切なものを次の1〜5の中から一つ選び、その符号をマークせよ。

- 1 報酬を簡単にもらえるために自分なりの工夫をする必要がなくなり、ゲームを以前よりも単純なものとして認識するようになるから。
- 2 結果に対する物質的な報酬が創造的な思考に悪影響を及ぼし、報酬が得られることによって理解力が徐々にそがれていくから。
- 3 報酬を与えると、報酬を得ること自体が目的となってしまう、関心のあつたものに対して主体的に取り組む姿勢を失ってしまうから。
- 4 報酬を与えられた子どもは、そうでない子供に比べて一時的にモチベーションが高まり、その分精神的疲労が蓄積していくから。
- 5 報酬を与えられた子供は難しい問題に取り組む時間が長くなったため、報酬がなくなると難しい問題に耐えられなくなるから。

問三 傍線部B「報酬を約束された子どもは、約束をされなかった子どもに比べ、系統だった仮説をつくることができなかった」とあるが、報酬を約束された子どもはどのような仮説を作ることが多かったと推測できるか。最も適切なものを次の1～5の中から一つ選び、その符号をマークせよ。

- 1 工夫を凝らしすぎたために、ある方向に偏った仮説
- 2 その場のひらめきに頼った、表面的な仮説
- 3 発想が貧困で、論理的だが面白みのない仮説
- 4 熟考の末、導き出された凡庸な仮説
- 5 自分の考えを独創的に進めすぎた、普遍性のない仮説

問四 空欄 ア に入る漢字一字を記せ。

問五 傍線部C「それをどのように実現するかという点では必ずしも一致しない」とあるが、その説明として最も適切なものを次の1～5の中から一つ選び、その符号をマークせよ。

- 1 探求エピステモロジーを実現する方法については、曲解されることもあり、考え方にまとまりがない。
- 2 教育現場でのほめ方については種々の案があるが、そのタイミングと方法がまだまだよく吟味されていない。
- 3 子どもが主体的に学ぶことを実現する方法について、教育界に統一された見解が存在しない。
- 4 受動的な学びをどの程度勘案して主体的学習を行わせるかという点で、多様な考え方があある。
- 5 「アクティヴ・ラーニング」と探求エピステモロジーの方法論は、かなり異なっている。

問六 傍線部D「子どもが遊びから何を学べるかどうかは親の技量にかかっている」とあるが、親はどのような技量を求められる
というのか。最も適切なものを次の1〜5の中から一つ選び、その符号をマークせよ。

- 1 子どもが創造性を発揮できるように、教えるということを我慢し全てを自由にさせる技量
- 2 状況を把握し子どもの本質を見極め、子どもが自然に成長したくなるように仕向ける技量
- 3 親が主導権を握っているように見せながら、本当は子どもの自由な学びを尊重する技量
- 4 子どもとの関わりかたを考え、遊びの道具や環境を整え、その枠組みを決めていく技量
- 5 個性を伸ばすため子どもの性格を見抜き、発達段階に合わせて日常生活を管理する技量

問七 傍線部E「うまく質問に答えるために、本に書いてあるキーワードやストーリーを味わうよりも覚えようとする態度を身につけてしまう」とあるが、それによって阻害されるものは何か。次の1〜5の中から一つ選び、その符号をマークせよ。

- 1 主体的な学び
- 2 知識の幅
- 3 ドネルケバブ・エビステモロジー
- 4 遊びの環境づくり
- 5 親の主導権

問八 傍線部F「児童期以降の学びでは時間の使い方がカギになる」とあるが、どのようなことに時間を使うべきかというのか。
本文中の語句を用いて、三十一字〜三十五字(句読点も一字と数える)で記せ。

(三)

次の文章は紫式部「源氏物語」の一節である。夕霧(中納言)と妻の雲居雁(女君)は、祖母の大宮(宮)とともにかつて暮らした三条殿に移っていたが、そこに雲居雁の父(大臣)が立ち寄る。以前、大臣は夕霧と雲居雁との結婚に反対していた。これを読み、後の問に答えよ。

御勢ひまさりて、かかる御住まひもところせければ、三条殿に渡りたまひぬ。すこし荒れにたるを、いとめでたく修理しなして、宮のおはしまし方を、改めしつらひて住みたまふ。昔おぼえて、あはれに思ふさまなる御住まひなり。前裁どもなど小さき木どもなりしも、いと繁き蔭となり、一叢^①薄も心にまかせて乱れたりける、つくろはせたまふ。遣水^②の水草も掻きあらため、いと心ゆきたるけしきなり。

をかしき夕暮のほどを、二^{〔注1〕}ところながめたまひて、あさましかりし世の、御幼さの物語などしたまふに、恋しきことも多く、人の思ひけむことも恥づかしう、女君は思し出づ。古人^{〔注2〕}どもの、まかで散らず、曹司曹司にさぶらひけるなど、参上^{まうは}り集まりて、いとうれしと思ひあへり。男君、

なれこそは岩もあるじ見^Bし人のゆくへは知るや宿の真清水

女君、

なき人のかげだに見えずつれなくて心をやれるいさらあのみ

a

などのたまふほどに、大臣、内裏よりまかでたまひけるを、紅葉の色におどろかさされて渡りたまへり。

昔おはさひし御ありさまにも、をさをさ變ることなく、あたりあたりおとなしく住まひたまへるさま、はなやかなるを見たまふにつけても、いともあはれに思^Dさる。中納言も、気色ことに顔すこし赤みて、いとど静まりてものしたまふ。あらまほしくうつくしげなる御あはひなれど、女は、またかかる容貌のたくひもなかなからんと見えたまへり。男は、際もなくきよらにおはす。古人どもも御前に所えて、神さ^{〔注3〕}びたることども聞こえ出づ。ありつる御手習どもの、散りたるを御覧じつけて、うちしほたれたまふ。「この水の心尋ねまほしけれど、翁^Eは言忌して」とのたまふ。

F
そのかみの老木はむべも朽ちぬらむ植ゑし小松も苔生ひにけり
男君の御宰相の乳母、つらかりし御心も忘れねば、したり顔に、

いづれをも蔭とぞたのむ二葉より根ざしかはせる松のすゑすゑ

老人どもも、かやうの筋に聞こえあつめたるを、中納言はをかしと思す。女君はあいなく面赤み、苦しと聞きたまふ。

〔注1〕 二ところ——夕霧(中納言)と雲居雁(女君)。

〔注2〕 古人ども——大宮(宮)存命の頃から仕えていた女房達。

〔注3〕 神さびたることども——古めかしい話など。

問一 傍線部①②の漢字の読みをひらがな(現代かなづかい)で記せ。

問二 傍線部A「あさましかりし世」の現代語訳として最も適切なものを次の1〜5の中から一つ選び、その符合をマークせよ。

- 1 大臣によって仲を裂かれ、当然ながら憎しみを抱いた当時
- 2 大臣によって仲を裂かれ、浅はかな方策をめぐらしていた当時
- 3 大臣によって仲を裂かれ、なすすべもなかった当時
- 4 大臣によって仲を裂かれ、情けなく悲しい思いをしていた当時
- 5 大臣によって仲を裂かれ、心根の卑しさを露呈していた当時

問三 傍線部B「見し人」とは誰をさすか。最も適切なものを次の1〜5の中から一つ選び、その符合をマークせよ。

- 1 宮
- 2 大臣
- 3 中納言
- 4 御宰相の乳母
- 5 女君

問四

a

に入る漢字一字を本文中から抜き出して記せ。

問五 傍線部C「おとなしく」の意味として最も適切なものを次の1〜5の中から一つ選び、その符号をマークせよ。

- 1 人に逆らわずにひっそりと
- 2 分別のある落ち着いた様子で
- 3 音を立てないよう息を殺して
- 4 身を慎み騒がしくないように
- 5 ひそかに世間の目を盗んで

問六 傍線部D「思さる」は誰から誰に対する敬意かを記せ。

問七 傍線部E「翁は言忘して」の理由として最も適切なものを次の1〜5の中から一つ選び、その符号をマークせよ。

- 1 中納言と女君の結婚に反対していたので、居心地が悪かったから
- 2 中納言と女君の結婚に反対していたので、心を許せなかったから
- 3 中納言と女君が新婚なので、干渉するのは野暮なことであるから
- 4 中納言と女君が新婚なので、余計な気を遣わせたくなかったから
- 5 中納言と女君が新婚なので、悲しい事を言うのは不吉であるから

問八 傍線部F「そのかみの老木はむべも朽ちぬらむ」を現代語訳せよ。

問九 傍線部G「中納言はをかしと思す」の説明として最も適切なものを次の1〜5の中から一つ選び、その符号をマークせよ。

1 二人の仲を裂こうとした大臣の仕打ちを女房達が覚えていて、ともに試練を克服した中納言と女君を褒め讃えたので、中納言は過去の復讐をする決意が固まった。

2 二人の仲を裂こうとした大臣の仕打ちを女房達が覚えていて、当てつけめいた和歌を詠む執念に大臣が怖じ気づく様子を中納言は小気味よく感じた。

3 二人の仲を裂こうとした大臣の仕打ちを女房達が覚えていて、立派に成長した中納言と女君を応援しようとする和歌を詠んだことが中納言は嬉しかった。

4 二人の仲を裂こうとした大臣の仕打ちを女房達が覚えていて、嫌味を込めた和歌を詠み、大臣が今頃になって中納言と女君に媚び、また頼ろうとする姿勢が中納言には滑稽だった。

5 二人の仲を裂こうとした大臣の仕打ちを女房達が覚えていて、中納言と女君が相思相愛であることをわざと和歌に詠んだので、中納言は女君が嫌がる様子をおもしろがった。

